

# 離島での持続的な酪農経営の実践

(沖縄県：有限会社 伊盛牧場)

## 取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

### <取組主体について>

- 所在地：沖縄県石垣市
- 代表者：代表取締役社長 伊盛 米俊
- 飼養頭数：経産牛60頭、育成牛40頭
- 飼料作物作付面積：草地15ha
- 雇用者数：22名（パート含む）
- HP等：（ミルミル本舗） <https://mirumiru1583.com/>



(左) 草地の簡易更新の様子



(下) 簡易更新用に開発したブルドーザー

### <取組について>

#### ○ 概要

- 購入粗飼料給与の多い沖縄の酪農経営において、恵まれた土地資源を活用して粗飼料を100%自給。
- 更新牛は基本的に自家育成しており、性別別精液により自家産で耐暑性に着目した乳牛改良を進める。
- 日射や通風に配慮し、牛舎には、送風機や噴霧装置の設置等を実施。
- 土壤改良を行い、牧草地にローズグラスを栽培し、年6回の刈取りと3年ごとの草地更新を行うことで、粗飼料はアルファルファペレット以外は完全自給が可能となった。
- 草地更新については、（社）みらい基金、沖縄県、石垣市、建機メーカーと連携して一台で「根切り」、「踏圧」をこなす簡易更新用のブルドーザーを開発し、牧草地の生産性向上と環境保護の両立を図っている。
- 濃厚飼料については、台風時でも供給が止まらないよう、島内の飼料販売会社が肉牛向けに貯蔵している圧ペンとうもろこしや麦、ふすまなどの単味を購入し、すべて自家配合している。
- 自家生乳を活用したジェラートを製造・販売し、6次産業化を実践。
- 2012年に整備された加工販売施設は、東シナ海を望む高台にあり、その立地の良さから観光客を中心として、売り上げも拡大傾向。
- 規格外で出荷できない地元の果樹等を引き受け、自家生乳と組み合わせてジェラートを製造するなど、地産地消や地域振興に貢献。

#### ○ 成果

- 平均乳量7,565kg/頭、乳脂率4.0%で、都府県酪農と変わらない品質を維持。
- 2013年に石垣空港にジェラート屋2号店を出店し、販路拡大。2019年には1号店と合わせて年間20万人が訪れる。



加工販売施設従業員



加工販売施設外観



牧場従業員



牛舎内（送風機による暑熱対策）